

漁船を有している相馬原釜漁協の水揚げ統計を用い、沖底での水揚げ魚種のうち、主に水深100m以浅で漁獲される魚種（沿岸種）と水深100m以深で漁獲される魚種（沖合種）との水揚げ金額の比率を、1987～2000年について求めた。抽出した魚種は表2の48魚種であり、48魚種の水揚げ金額は相馬原釜漁協底びき網水揚げ金額の92～98%を占めていた。

### 実質水揚げ金額の推移

「県統計」から、1969～1999年の各年の沖底・小底の水揚げ金額を求め、価額を統一するために国民経済計算年報（経済企画庁編）の国内総支出デフレーターにより、1997年価額に換算した。

表2 相馬原釜漁協底びき網の「沿岸」・「沖合」別抽出魚種

沿岸種	沖合種		
アイナメ	マダラ		
スズキ	スケトウダラ		
メバル	メヌケ類		
マアナゴ	キチジ		
マダイ・チダイ	キアソコウ		
トウベツカジカ	アオメエソ		
カナガシラ	エゾイソアイナメ		
ホウボウ	ヤナギムシガレイ		
ヒラメ	ババガレイ		
マガレイ	ミギガレイ		
マコガレイ	アカガレイ		
イシガレイ	ヒレグロ		
ムシガレイ	サメガレイ		
メイタガレイ	ミスダコ		
ヌマガレイ	ヤナギダコ		
ホシガレイ	スルメイカ		
シタビラメ類	ヤリイカ		
マダコ	シライトマキバイ		
ジンドウイカ	チヂミエソボラ		
ホタテガイ	ケガニ		
ナガウバガイ	ベニズワイガニ		
エゾイシカゲガイ	ズワイガニ		
ヒメエソボラ	ヒゴロモエビ		
モスソガイ			
ヒラツメガニ			
計	25種	計	23種

## 結 果

### 操業隻数の推移

沖底と当県小底の漁労体数の推移を表3に示す。

表3 沖底、福島県小底漁労体数の推移

	全国	太平洋北区	（うち宮城、	福島、	茨城、	3県計）	福島県小底
1955年	2,004	683	264	199	54	517	29
1960年	1,368	408	147	106	28	281	116
1965年	1,176	315	122	57	33	212	149
1970年	923	180	55	34	31	120	126
1975年	831	166	45	23	30	98	113
1980年	749	149	46	20	27	93	109
1985年	689	123	42	20	17	79	91
1989年	629	169	47	68	16	131	34
1994年	522	139	43	54	10	107	29
1998年	468	125	35	50	9	94	26
1998年/1955年	0.23	0.18	0.13	0.25	0.17	0.18	
1975年/1955年	0.41	0.24	0.17	0.12	0.56	0.19	
1998年/1975年	0.56	0.75	0.78	2.17	0.30	0.96	

全国の沖底の漁労体数は1955年以降継続して減少傾向にあり、1998年には1955年の23%にまで減少していた。太平洋北区でも同様に18%に減少し、うち宮城、福島、茨城の3県合計の数字も18%に減少していた。

1955年以降の期間を、1975年までの20年間とそれ以降の23年間に分けてみると、全国の沖底では前半の20年間に41%に減少し、その後の23年間でさらにその56%となっていた。太平洋北区では前半に24%に減少し、後半にはその75%となっていた。宮城、福島、茨城の3県合計では前半に19%に減少し、後半にはその96%と殆ど減少しておらず、特に1985年から1989年にかけては、逆に福島で48隻の増加、宮城で5隻の増加がみられた。なお同じ期間の当県小底の漁労